

地域別の緑の現況と課題整理

1. 北部地域

地域の概要

- **人口**
134,709 人（令和8年3月時点）
年々、右肩上がりに増加
- **土地利用**
平成19年度から令和3年度の14年間で、自然的土地利用^注は**171.6ha減少**、一方、**田は増加**
住宅用地面積は、市内4地域の中で最大
- **市街地整備**
柏の葉地域では、「**柏の葉国際キャンパス構想**」を踏まえ、公・民・学の連携による特色あるまちづくりを展開

注）自然的土地利用：田、畑、採草放牧地、荒地、耕作放棄地、低湿地、山林、水面、その他自然地を指す。

緑の特徴

- 利根川と周辺の農地・斜面林、利根運河が**大きな骨格の緑を形成**
- 花野井・布施一帯は、雑木林・屋敷林や農地がまとまった区域を形成
- 柏たなか、大室東、高田等の一部では、**生産緑地等の都市農地の多くを維持**
- つくばエクスプレスの沿線開発に伴い、**新しい緑豊かな街並みが形成**
- 主な公園緑地は、柏の葉公園、こんぶくろ池、あけぼの山公園・あけぼの山農業公園、旧吉田家住宅歴史公園など
- あけぼの山公園・あけぼの山農業公園は、市内外から年間50万人以上が来園する**柏市有数の観光拠点**

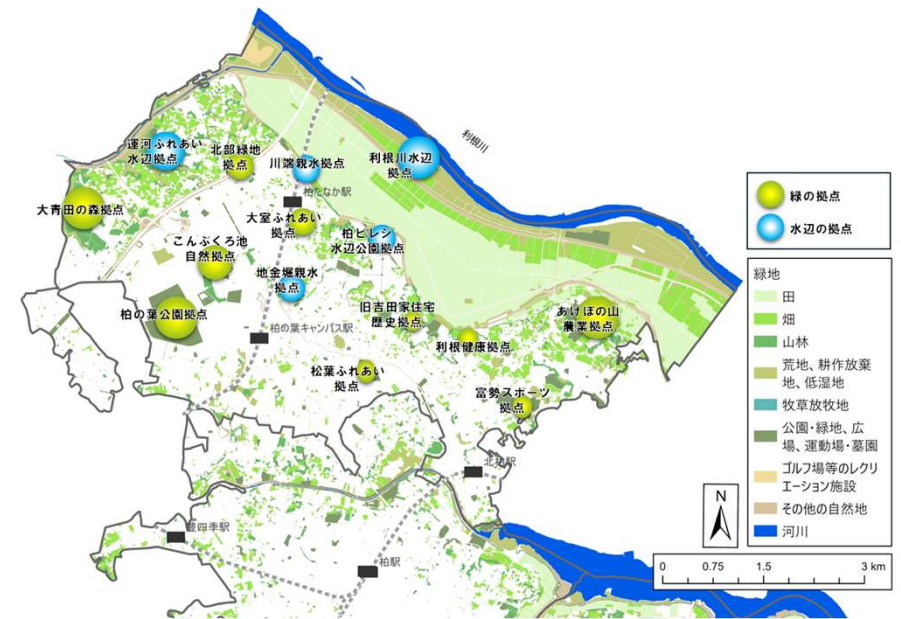


図1 北部地域 緑の現況

緑に対する市民意識

- 市内で、**緑の満足度や活動意欲が最も高い地域**
- 市内で、**公園の満足度や利用頻度が、最も高い地域**
- 緑に対する意識が高く、その受け皿となる制度やその情報などの環境改善が求められている

緑の課題

- 大青田の森などの開発における**緑の保全と活用のバランス**
- 北部の公園整備と緑地環境の充実
- **こんぶくろ池の湿性環境の保全と整備**
- **あけぼの山周辺地域の魅力向上**
- **市民参画に関する制度や情報の改善**



2. 中央地域

地域の概要

- **人口**
146,461 人（令和8年3月時点）
人口規模は、市内4地域の中で最大
- **土地利用**
平成19年度から令和3年度の14年間で、自然的土地利用^注は64.7ha減少
- **市街地整備**
柏駅周辺は、中心市街地としてふさわしい拠点の形成に向けて、さらなる商業・業務機能の集積を推進

注）自然的土地利用：田、畑、採草放牧地、荒地、耕作放棄地、低湿地、山林、水面、その他自然地を指す。

緑の特徴

- 手賀沼につながる大堀川・大津川とその周囲の緑地環境が、骨格の緑を形成
- 豊四季、戸張、篠籠田等の一部では、生産緑地等の都市農地の多くを維持
- かつての地域の暮らしを伝える野馬土手のほか、柏神社、諏訪神社などの社寺の緑が貴重な緑の空間を形成
- 主な公園緑地は、柏ふるさと公園・北柏ふるさと公園、大堀川リバーサイドパーク、手賀沼ふれあい緑道、大堀川防災レクリエーション公園、日立台公園など
- 大堀川リバーサイドパークや大堀防災公園レクリエーション公園は、健康やスポーツの場として、多くの市民が利用

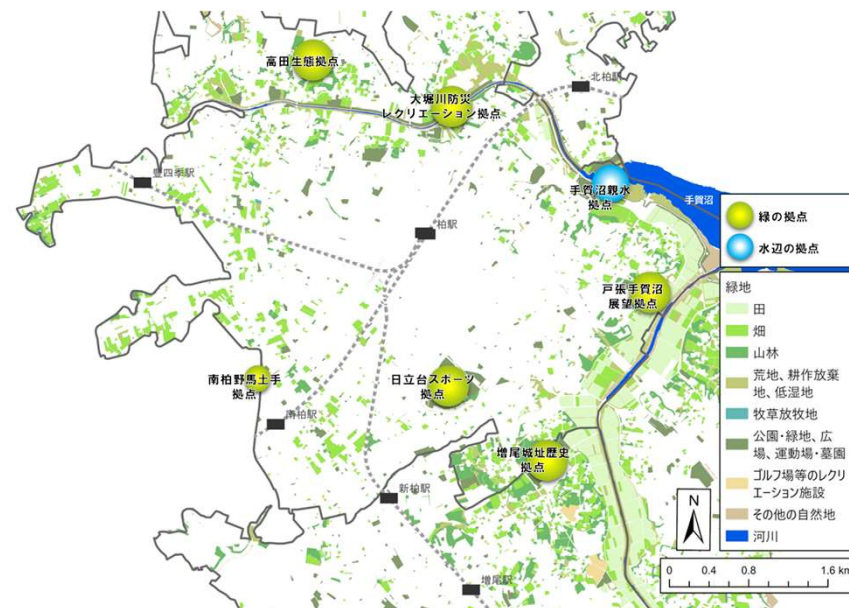


図2 中央地域 緑の現況

緑に対する市民意識

- 市内で、緑の活動頻度や活動意欲が最も低い地域
- 市内で、緑量が最も少なく、緑に触れる機会そのものが少ない状況にあり、商業地という地域特色を踏まえつつ、まちの中で緑に触れる機会の増加が求められる

緑の課題

- 中心市街地におけるまちなかの緑の環境の充実や創出
- 大堀川や手賀沼の水辺環境を活かした公園の再整備によるまちの魅力向上



3. 南部地域

地域の概要

- **人口**
106,480 人（令和8年3月時点）
4 地域では20年間の増加幅が最も小さい
- **土地利用**
平成19年度から令和3年度の14年間で、自然的土地利用^注は**76.4ha減少**
- **市街地整備**
新柏駅や逆井駅周辺の一部区域では、土地区画整理事業により**道路・公園等の基礎整備が完了**

注）自然的土地利用：田、畑、採草放牧地、荒地、耕作放棄地、低湿地、山林、水面、その他自然地を指す。

緑の特徴

- ・ 大津川と周辺の斜面林や農地などが、**骨格の緑を形成**
- ・ 増尾・藤心・逆井一帯は、**雑木林・屋敷林や農地のまとまった区域を形成**
- ・ 江戸川水系の上富士川支流に湧水が存在
- ・ 南部（酒井根周辺）の市街化調整区域では、**農地が多く残存**
- ・ 主な公園緑地は、増尾城址総合公園、酒井根下田の森緑地、中原ふれあい防災公園、柏リフレッシュ公園、南部公園、南増尾小鳥の森など

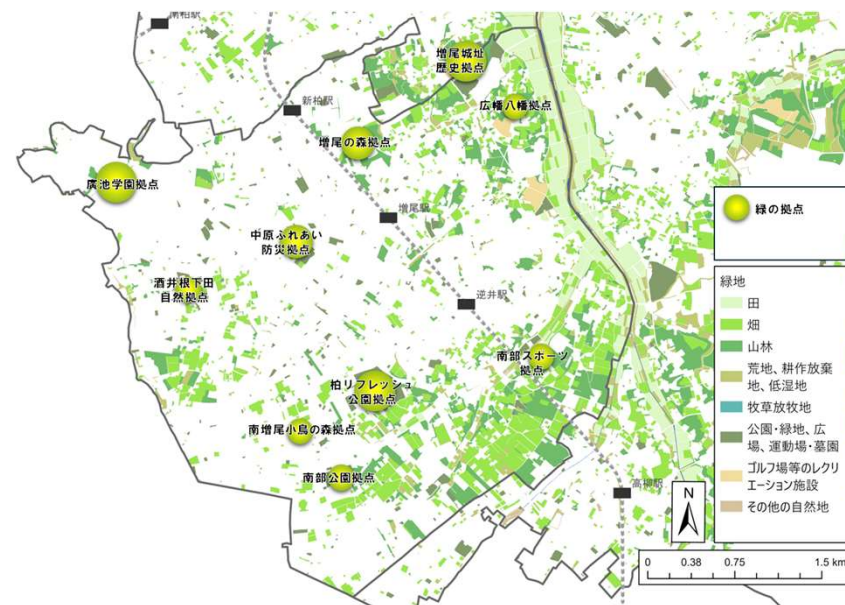


図3 南部地域 緑の現況

緑に対する市民意識

- 市内で、**緑への関心や緑の活動頻度が最も高い一方で、緑への満足度は最も低い**
- 緑に対する意識が高く、活動も活発であるため、その受け皿となる**制度やその情報などの環境改善、公園の緑環境の充実**が求められている

緑の課題

- ・ 老朽化した小さな公園の**リニューアル**
- ・ 市街地に分布している**農地の活用**
- ・ **市民参画に関する制度や情報の改善**



柏リフレッシュ公園



下田の森緑地

4. 東部地域

地域の概要

- **人口**
52,508 人（令和8年3月時点）
人口規模は市内 4 地域の中で最小
- **土地利用**
平成19年度から令和 3 年度の14年間で、
自然的土地利用^注は**64.7ha減少**
自然的土地利用面積は 4 地域の中で最大

- **市街地整備**
大津ヶ丘団地や手賀の杜(湖南地区)等の
面整備事業が完了

注) 自然的土地利用：田、畑、採草放牧地、荒地、耕作放棄地、低湿地、山林、水面、その他自然地を指す。

緑の特徴

- ・ 手賀沼・手賀川と農地・斜面林・谷津田が一体となった**広大な緑の空間が存在**
- ・ 大津川周辺の農地・斜面林・湧水、染井入落・金山落などが**骨格の緑を形成**
- ・ 台地端に見られる斜面林は、手賀沼沿いから**地域全体をふちどるように連続して存在**
- ・ 大津ヶ丘地区には、住宅地と公園があり、**市街化区域縁辺部では、農的利用が多い**
- ・ 主な公園緑地は、**手賀の丘公園、ふるさとの森、沼南の森**など

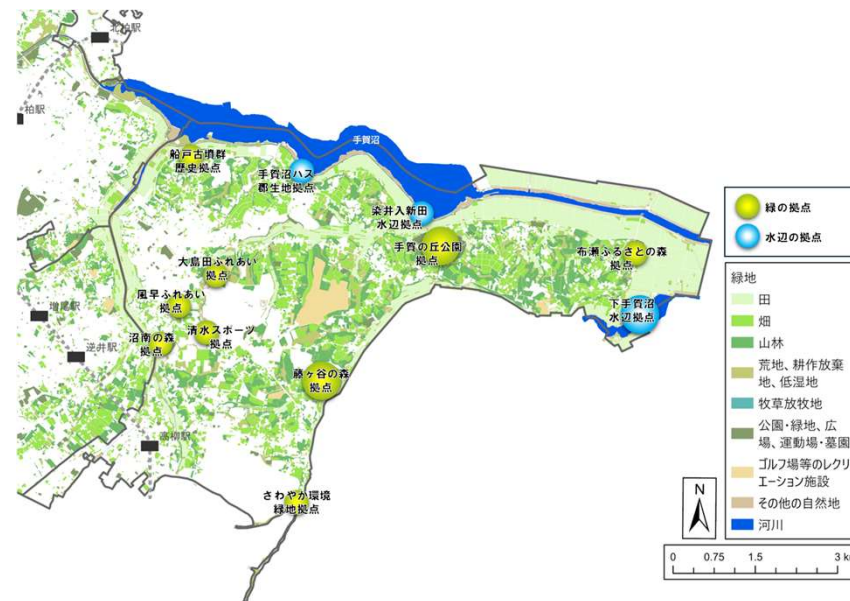


図4 東部地域 緑の現況

緑に対する市民意識

- 市内で、**緑への関心度が最も低い**
- 市内で、**公園の満足度・利用頻度が最も低い**
- 既存の公園の**リニューアル**など、公園の環境改善が求められている

緑の課題

- ・ 斜面林や農地など、**地域の豊かな緑の保全と活用**
- ・ 手賀の丘公園の**活用と周辺施設との連携**



手賀沼と斜面林



手賀の丘公園